

## 令和7年度 第4回 赤磐市地域公共交通会議議事録

日時：令和7年12月22日（月）10：00～10：46

会場：赤磐市役所 3階協議会室

### 1. 開会

事務局：令和7年度第4回赤磐市地域公共交通会議を始めさせていただきます。本日の資料でございますが、事前に送付させていただいております。委員数21名に対し、ご出席頂いている委員は14名で過半数を超えておりますので、赤磐市地域公共交通会議設置要綱第5条第3項の規定により、会議は成立いたします。それでは、総合政策部長の幸坂よりご挨拶をさせていただきます。

#### 総合政策部長挨拶

事務局：次第に従いまして会議を進めさせていただきます。まず、委嘱状の交付でございます。令和7年11月30日で委員の任期が終了しておりますので、令和7年12月1日から2年間新たな任期につきまして、赤磐市公共交通会議の委員に改めて委嘱させていただきます。恐れ入りますが、この度の委嘱状につきましては、事前にお手元に置かせていただいておりますので、ご確認をいただきたいと存じます。併せまして、資料の1ページに新たな任期の方々の名簿を添付しておりますのでご覧ください。委員として、新たに宇野自動車株式会社大月様に会議に参加していただくこととなっております。どうぞよろしく願いいたします。

また、本日ご欠席ではございますが、これまで赤磐商工会からは中原会長にご出席をしていただいておりますが、栗政副会長が新たな委員として選任いただいております。次に役員の選任について、会長及び副会長、監査委員の選任をお願いしたいと存じます。設置要綱第4条第1項の規定により、会長1名、副会長1名、監査委員2名を、委員の互選により定めることとなっております。

どのような方法で選出いたしまししょうか。ご意見がございましたらよろしく願いいたします。

委員：事務局のほうで案がありましたらお願いします。

事務局：それでは、事務局案ということで、引き続き会長に、岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域教授の橋本成仁様、副会長に、赤磐市副市長の是松誠、監査委員に、栗政丈二様、末本敏之様を提案させていただきます。なお、本日、欠席されております栗政委員及び末本委員には事前に内諾をいただいております。委員の皆さまいかがでしょうか。ご承認をいただけるようでしたら、拍手をお願いいたします。

（一同承認）

それでは、選任されました会長及び副会長におかれましては、恐れ入りますが、資料をお持ちになり、前の会長席及び副会長席にお移りください。それでは、開会にあたり、会長から御挨拶をお願いいたします。

## 会長挨拶

事務局：ありがとうございました。協議に入ります前に、前回10月に行われた令和7年度第3回赤磐市地域公共交通会議の簡単な振り返りをさせていただきます。

## 前回会議内容の確認

事務局：前回の内容についてご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

### ◇質疑応答・意見

(特になし)

事務局：よろしいでしょうか。また何かお気づきの点等ございましたらご発言ください。  
それでは、会長の方で進行をよろしくお願いいたします。

会長：まず、本日の地域公共交通会議の議事録の署名人を指名したいと思います。實盛委員と宮地委員にお願いいたします。

## 2. 協議事項

### (1) 広域路線バス（赤磐・瀬戸線）の見直しについて

#### ◇資料説明

事務局：本路線は、令和7年4月から運行を開始した、周匝上と瀬戸駅間を結ぶバス路線です。運行開始から一定期間が経過しましたので、バスロケータを活用して運行状況の検証を行いました。その結果に基づき、周匝上行きについて、瀬戸駅前から五日市下までのダイヤを見直すものです。具体的には、記載の変更案のとおり、当該区間の設定時刻を現行より1分から2分遅らせます。なお、施行日は令和8年4月1日を予定しております。

2ページをご覧ください。まず、右側の表「周匝上発・瀬戸駅前行き」の検証結果です。各バス停の発着時刻を検証したところ、途中、平均3分程度の遅れが見られる箇所もございますが、終点の瀬戸駅前には時刻表どおりに到着しております。そのため、こちらの便については「見直し不要」と判断いたしました。

次に3ページをご覧ください。「瀬戸駅前発・周匝上行き」の検証結果をご覧ください。こちらも終点には概ね定刻で到着しております。しかしながら、始発の「瀬戸駅前」から「五日市上」までの区間におきましては、時間調整を行う待避所がなく、交通量が少なくスムーズに流れた場合に、定刻より早くバス停を出発してしまう「早発」のリスクがございます。現在は、運行事業者の判断で、あらかじめ瀬戸駅の発車を2分程度遅らせることで調整している実態がございます。

今回の改正は、この実態に合わせ、無理なく安全に運行できるよう時刻表を変更するものです。

4 ページ以降に、改正後の時刻表案を添付しております。周匝上行きの時刻表、赤字部分が変更箇所になります。説明は以上です。

◇質疑応答・意見

会 長：これはバスロケデータを使って細かく検証し、無理のない時刻表を作っ  
ていこうというものと認識している。事務局に何うが、変更前、問題が発生  
していた、あるいは苦情があったか。

事 務 局：この路線については特になかった。

会 長：乗客から苦情が出ていると言うことではなかったということだが、運転手  
の判断により今まで遅くスタートしていたものを、時刻表を合わせたと  
いうものである。

周匝上発の便も若干スタートが遅れているが、今回は変更しなくてよい  
のか。

事 務 局：意識的に遅らせているということではなく、出発ギリギリの時間に子どもが  
乗車する場合もあり、待つことがあるということの積み重ねの結果であ  
ると考えている。

会 長：平均で 1 分ということは遅いときはスタートがもっと遅れているのでは  
ないかと思う。始発で遅れるというのはなかなかのものだと思う。2 分程  
度遅れの瀬戸駅発は手を加えたが、1 分程度遅れの周匝上発は手を入れな  
かったということか。

事 務 局：1 分程度のズレは許容範囲であると判断している。

会 長：バスの運転手は時刻表通りに運行しようという意識が強いので、定時的に  
遅れが発生するようであれば、つついアクセルを踏んでしまうという  
事が起こりかねない。安全運転の為に無理のない時刻表を作ることが  
非常に大事である。

他に意見がなければ、今回の変更案について承認いただける方は挙手に  
て意志表示をお願いします。

(一同承認)

会 長：では、承認ということで事務局は手続きを進めてください。

(2) 令和 7 年度生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統）の自己評価について

◇資料説明

事 務 局：資料 2 の 1 ページをご覧ください。令和 7 年度生活交通確保維持改善計  
画（地域内フィーダー系統）の自己評価について説明させていただきます。  
本件は、国の地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けて運  
行している、吉井地域および赤坂地域のデマンド型市民バスについて、  
昨年度の事業の実施状況の確認、評価をして、国へ報告するものでござ  
います。評価対象期間は、令和 6 年 10 月 1 日から令和 7 年 9 月 30 日ま  
での 1 年間です。なお、赤坂地域のデマンド型市民バスにつきましては  
は、本格運行を開始した令和 6 年 11 月から評価の対象となっております。  
評価結果についてご報告します。

「⑤目標・効果達成状況」の欄をご覧ください。まず、有限会社竹内  
タクシーと有限会社荒嶋建設が運行する吉井地域です。こちらは、令和

7年4月よりエリアを地域全域に拡大し、AI デマンド型予約配車システムの導入や予約時間の短縮など、利便性の向上に努めました。その結果、利用者は増加傾向にあり、利用者数は目標1,596人に対し2,007人、収支率は目標の1.6%に対し2.5%、財政負担は目標値6,190円/人に対し5,982円/人と、すべての項目で目標を達成しましたので、評価を「A」としております。

次に、有限会社赤坂タクシーが運行する赤坂地域です。こちらも地域への認知が進み、利用者が増加しております。利用者数は目標750人に対し1,195人、収支率は目標2.7%に対し3.1%、財政負担は目標値6,849円/人に対し6,511円/人と、すべての項目で目標を達成しましたので、評価を「A」としております。

続きまして、「⑥事業の今後の改善点」についてです。利用促進策として実施した「デマンド型市民バスを利用した買い物企画」において、参加者の利用登録率が40%と、通常のバスの乗り方教室の15%に比べ非常に高い実績が得られました。高齢者の外出支援等の福祉的な効果も期待できることから、今後も継続して実施し、新規利用者の獲得に努めます。一方で、利用者増加に伴い待ち時間の長期化、予約の困難化等のサービスの質の低下も懸念されるため、システム業者・運行事業者と連携し、AI デマンド型予約配車システムの機能設定の最適化について検討を進めるとしております。

次に、2ページをご覧ください。ここでは、地域の交通の目指す姿ということで、本市の地域公共交通計画を踏まえ、事業実施の目的と必要性を記載しております。

3ページからは、令和7年度地域公共交通確保維持改善事業評価生活交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の概要を添付しておりますが、全体の詳細説明は省略させていただき、ポイントのみ補足いたします。

4ページの左下、「昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ」をご覧ください。ここには、先ほど触れました「買い物企画」の成果として、参加者の登録率の高さや、引きこもり防止などの波及効果について記載しております。また、その右上の「実施した利用促進策」には、吉井地域でのエリア拡大や、予約時間の短縮による利便性向上策について記載をしております。

5ページにつきましては、先ほど1ページ目でご説明した内容の詳細となりますので、説明は割愛いたします。また、6ページから8ページには、交通体系図と運行系統図を添付しておりますので、後ほどご覧ください。以上で説明を終わります。

#### ◇質疑応答・意見

(特になし)

会 長: 意見がなければ、この件について承認いただける方は挙手にて意志表示をお願いします。

(一同承認)

会 長：では、承認ということで事務局は手続きを進めてください。

### 3. その他

- ・研究論文「地域住民の認識を通じたデマンド交通の価値に関する研究 岡山県赤磐市赤坂地域を対象として」について

事務局：「地域住民の認識を通じたデマンド交通の価値に関する研究 岡山県赤磐市赤坂地域を対象として」というお手元の論文をご覧ください。令和7年度の初回会議の際、橋本会長からご説明をいただいた内容と少し関係いたします。赤坂地域のデマンド交通を令和6年1月15日から実証運行し、およそ1年経過後、赤坂地域全域の方々を対象にアンケート調査を行いました。その結果を岡山大学の学生の坂本さんがまとめ、橋本先生の考察をつけていただき、研究論文という形になったと報告いただきましたので本日皆様にお配りいたしております。アンケート結果については、乗っておられる方、乗っておられない方がおられますが、デマンド交通という手段を導入するということに対しての、地域の方の意識がどう変わっていくかということを具体的に研究いただきました。デマンド交通の価値という結論等もしっかりと書いてあると思いますので、ぜひ目を通していただければと思います。

会 長：昨年の公共交通会議でも紹介し、今年もその結果を説明させていただいたと思います。アンケート調査をさせていただいて、デマンド交通が赤坂地域全体にどれくらいよい影響を及ぼしているかを分析しようという研究でした。結果として、サービス自体の満足度が高まってくると、現在の利用価値、あるいは将来の利用価値を認めるようになり、最終的にはまち自体の魅力や将来性などの評価は高まっていきます。デマンドは、利用者が少ししかないの、あまり効果がないのではという意識があるかと思いますが、使っていない人も、町にデマンドがあるので自分の将来使えるかもしれないことが、地域全体の魅力、価値を向上させているということを示した研究です。この論文は日本都市計画学会という、計画系の国内最高峰の学会に採択された。

- ・その他質疑応答・意見

委 員：皿井タクシーだが、山陽団地線を増便しているが、来年度以降も継続でよいか。

事務局：昨年度から増便運行しているが、利用状況も好調であり、引き続きお願いしたい。

委 員：公共交通会議への出席回数を重ねていくと、必要なものは必要であるという思いになる。赤坂の定時定路線は乗ってもらえなかった。デマンドにすると乗客が増えて行き、仕事を取られるというのが怖いと思っていたが、それで地域が潤うのであれば、最終的には良いのかなと思う。まちがうまく回らないと、全てがだめになると思うし、誰かが何かの役割を果たしてくれてやってくれているのを感じている。どうにかうまく回していきたいと思うし、皆さんにどうしたら乗車してもらえるのかを考えながら参加させてもらっている。

事務局：皿井タクシーさんには、赤坂地域において定時定路線を運行してもらって

いた。縦横無尽にダイヤを組んでいる訳でもなく、皆さんの家の近くに停留所があるわけでもなかったので利用が低調だった。そのため、デマンド型に変更させてもらった経緯がある。すると事業者としては、今まで運行していたものが無くなるということもある。市としては市民の方々の移動の最適な支援、事業者へのご協力をさせていただいて、地域の皆様方に喜んでいただけるような公共交通、生活支援をしていきたいと考えている。赤坂地域に加えて、熊山地域も一部デマンド型に切り替えている。いろんなやり方があると考えており、デマンドが本当に最適なのかということもあるので、今後もいろんな手法を検討しながら事業を推進して行きたいと考えている。

委員：仕事柄いろんなまちの公共交通会議に出席させていただいている。公共交通の中で定時定路線やデマンド等を考えて、利用者の多い・少ないを議論していると思うが、赤磐市の公共交通会議に出席し、非常に安心するのは、何をしたいのか目的がはっきりしている。暮らしている人をどうするのか、どうしたいのかを主眼に置いて事業者に協力してもらうという形がとてもよいと思う。これからも事業者の皆さんにご協力をいただきながら、まちの人口維持をしないとイケないし、住めなくなるという所を減らし、発展させて行かなくてはイケない。これからもまちづくりの中で事業者さんの協力をいただきながら公共交通を考えていってほしい。

事務局：赤磐・瀬戸線などは学生さんの足がないなどということもあり、前回の会議では美作線のダイヤを調整させていただいた。市民の方々にしっかり活用させていただいて、まちづくりの観点も含め、住んでいて良かったと思ってもらえるような施策を進めていきたい。

委員：赤磐・瀬戸線について、親族が学生の頃から、瀬戸駅まで直行便があると良いと思っており、ようやく出来たことに喜んでいる。デマンドについて、赤坂地域の評価は出ていたが、石相学区ではあまり使われていない。学区毎のデータは取っているか。

事務局：乗降ポイント毎の乗降者数の集計はしている。

委員：仕方ないことだとは思いますが学区ごとの利用度合いが違うと思うので、その辺りも今後参考にしてほしい。

会長：デマンドは利用者が非常に多いという状況ではないので、ぜひ口コミで使えることを広めていただきたい。データについては、地域毎に利用率、年齢層が違うため、ばらつきはあると思うが、集計分析していただけたらと思う。

#### 4. 閉会

副会長挨拶